



論文必勝法

連載にあたって

谷口倫一郎 | 九州大学

学術雑誌に論文を掲載することは、筆者が行った研究の成果を公表することによって、社会として研究成果を積み重ね、公共の知を豊かにしていくという点で、きわめて重要な営みである。このような観点から、論文の掲載にあたっては、投稿された論文が出版されるに妥当な内容であるかを確認する過程、いわゆる「査読」が行われるのが常である。逆に言えば、論文が掲載されたということは、基本的には、その内容が正当であり、一定の新たな知見を含んでいることを示している。もちろん、後続の研究の結果、その内容に誤りが含まれていることが判明するといったことも起こり得るが、掲載時点で適切な査読が行われたということが重要である。

すなわち、研究に従事する者にとって、論文を学術雑誌に掲載することは、最も重要な研究活動の1つであり、本会会員の多くが、本会の論文誌ジャーナル/JIP、トランザクションへの投稿を考えておられると思う。そのような方にとってはいかに「査読」をクリアするかが重要な点であると思われる。投稿される論文には査読の結果、採

録に至らないものも少なからず出てくるが、その中には、もう少し論文のまとめ方や書き方に注意すれば、採録に至ると思われるものも相当数存在している。そこで、本連載では、2019年3月の第81回全国大会で開催した企画セッション「論文必勝法」での議論をベースに、論文を採録に導くには、どのような点に注意すべきかについて、論文誌ジャーナル/JIP編集委員会の編集委員長、ならびに各グループの主査が解説する。良い論文を執筆するための基本的な作法、論文を出す前のチェック事項、査読結果への対応方法（論文修正時の注意点や査読結果への回答文の書き方）などが主なポイントである。それらに加えて、査読を依頼される立場にもなった場合の、査読の行い方についても解説する。査読の行い方を知っておくことは、論文を採録に導くためにも参考になると考えている。本連載が、論文執筆者のみならず、論文執筆を指導する立場の方、査読をお引き受けくださる方の参考になることを期待する次第である。

(2019年5月28日)

